

第154回 令和8年1月14日（水）

「労働について。」

人間は生まれた時から大きな水瓶を持っていると思ってください。

水瓶の中には水が入っています。水の量は人によって違います。水瓶はヒビが入っていて、少しずつ水が漏れています。この水が無くなった時がその人のゲームオーバーです。

水が瓶の中にどれくらい入っているのかは自分で確認できません。ものすごくたっぷり入っている人もいれば、ほんの少ししか入っていない人もいます。

水は自分で自由に使うことができます。ヒャクですくって自分以外の人に使ってもらうことも可能です。その場合には大抵お返しとして「お金」をもらいます。「お金」が欲しいから水をたくさん使う人もいます。残りは見えませんからいつの間にか水瓶が底をつくこともあります。

寝ているときにも水は減ります。もったいないので寝ている時間を減らす人もいますが、病気になるとヒビが大きくなります。ヒビが大きくなると当然水は早くなくなります。場合によっては水瓶が壊れて水が流れてしまうこともあるでしょう。

わかった人もいるかと思いますが、水に例えているのはみなさんの「時間」です。「寿命」と言い換えてもいいかもしれません。そして労働と言うのはみなさんが「時間」を差し出してその対価を得る行為になります。

時間が一人ひとりどれくらい与えられているのか、これをわかる人はいません。最後になって「もっと自分のために時間を遣えばよかった」とか「もっと家族と一緒に過ごせばよかった」と思う人は少なくありません。

日本人はヒャクですくった水を多めに渡す傾向がありますが、これが残業や時間外労働と呼ばれるものです。働き方改革が叫ばれて久しいですが、定時に帰ることができる社会はなかなか実現できません。

お金は大切です。ただよく言われる言葉で「健康」はお金で買えませんから、水瓶にヒビを入れてまで稼ぐ必要はないと思います。また「時間」は少なくなるほどそのありがたみを感じます。若いから無限にあるというものでもありません。

水瓶の水をどう使うかは自分で選ぶことが大事です。それが後悔のない人生の過ごし方につながります。